

森林やまがた

No.80

2003 11月



目次

第13回山形県林業まつり.....	2
第50回山形県林材業年次大会開催.....	3
第15回県産材展示会を開催.....	4
間伐コンクール.....	5
緑の少年団活動報告	
育樹祭の思い出.....	6
林業・木材産業改善資金制度の概要.....	7
お知らせ	
山形県きのご品評会のご案内.....	7

普及情報	
高性能林業機械の現状と課題.....	8
現地ルポ	
里山林森林オーナー制度の活動から.....	9
山形県の古木・名木.....	10
公共木造施設.....	10
第二十八回山形県児童木工工作コンクール.....	11

(表紙写真は、山形県林業まつりのオープニング・セレモニーの丸太カット：山形市ビッグウイング)

第十三回山形県林業まつり

『見て触れて使って活かす木の命』をテーマに賑やかに開催



親子のふれあいを感じる
ことができたのではない
でしょうか。また、丸太
切り競争では、なんと十
九秒台の新記録が達成さ

れたり、鮭川清流太鼓の演奏でも、
親方の華麗なトークに会場は大爆笑
でした。

会場内には、例年以上に木製品の
展示販売やきのこなどの林産物販売
が多く、「木の博士になろう」や各地
域の林業振興協議会コーナーでも大
根輪投げや、なめこのつかみ取り、

マツタケを商品としたストライクア
ウトゲーム、木工クラフトなどの楽
しいイベントが盛りだくさんで、木
とのふれあいを実感してもらおう良い
機会になりました。また、今年も間
伐材製品展示コーナーを設置し、間
伐材の普及啓発にも努めました。

テーマ館では、木の良さを理解し
てもらうため、県産スギをはじめ様
々な樹種の柱材を展示したほか、「森
林バイオマスコーナー」は規模を拡
大し、六台のペレットストーブを展
示実演しました。やや肌寒い感もあ

り、多くの方がペレットストーブの
まわりに集まり、説明者の話しを興
味深く聞いていました。

また、今年度から林業まつりも県
のエコイベント指針に基づいた環境
配慮計画を策定し、ゴミの抑制やグ
リーン購入の推進など環境負荷の低
減を呼びかけて実施しました。木材
は、再生産可能な資源であり、それ
を利用することをPRする林業まつ
りの実施そのものが、エコイベント
であることを実感しました。

〔県森林課〕

「見て触れて 使って活かす 木
の命」をテーマに、県産木材やきの
こなどの需要拡大を図るため、第十
三回山形県林業まつりが十月十二・
十三日の二日間、山形国際交流プラ
ザ（ビッグウイング）を会場に開催
されました。
今年は、国民文化祭との共催によ
り、テーマ館のみ十一日も開館しま
した。
初日は、好天と国文祭効果により
過去最高の人手となりました。二日
目は、林業まつり始まって以来の本
格的な雨模様となりましたが、例年
以上の盛り上がりを見せ、二日間で
四万二千人の入場者を数えました。
恒例となっている各イベントも盛
況で、親子木工教室では、様々な工
夫を凝らした製作に親子一緒に取り
組む姿がたくさんあり、木を通して



親子木工教室 “何を作るのかな？”



輪投げ競争に挑戦



木製遊具で愉快地遊ぶ子ども達



ペレットストーブの展示実演

第五十回 山形県木材業年次大会開催

記念講演により大会を盛り上げる

去る十月十二日、山形市ビックウイングにおいて、山形県木材業年次大会が開催されました。

今年は、五十回の節目に当たることから、記念講演と大会の二本立てで企画され、会員二〇〇名の参加を得て盛大に行われ、所期の目的を達成することができました。

一 記念講演

講師に、農林水産省林政審議会特別委員の滑志田隆氏（毎日新聞本社人口問題研究会次長）を迎え、「森林の機能・価値の転換」を林政審議会の議論からと題し講演され、日本林政の今後の方向が示唆されました。

二 大会

石澤大会副会長の開会、松田大会会長の主催者挨拶ののち、来賓として出席された、梶谷森林整備部長（林野庁長官代理）、横山出納長（山形県知事代理）、阿部外務副大臣、鹿野前衆議院議員、岸参議院議員、渡辺参議院議員、土屋県議会副議長（県議会議長代理）、鈴木山形市農林部長（山形市長代理）から祝辞を頂戴し

たあと、議事に入り、五課題三十八項目にわたる提案があり、西置賜ふるさと森林組合代表理事組合長菅貞雄氏及び県木材産業協同組合副理事長沖田純夫氏の賛成意見が述べられるなど、審議の結果原案どおり承認されました。土田副会長が大会決議案を読み上げ、満場一致で採択され、富樫副会長の閉会の挨拶により二時間に及ぶ大会が終わりました。



開会のあいさつをする森林協会会長

(1) 大会スローガン

・地球温暖化を防止する森林整備の拡充強化

・資源循環型社会を担う林業・木材産業活性化の促進

・豊かな暮らしを広げる県民参加の森林づくりの推進

(2) 提案・要望事項

ア 多様で健全な森林の整備・保全を通じて地球温暖化の防止

①地球温暖化防止森林吸収源対策の拡充強化 ②緑の構造改革循環型モデル事業の実施 ③長期育成複層林造成の促進 ④保安林整備総合対策の推進 ⑤公的主体による多様な

森林の整備 ⑥森林整備地域活動支援交付金制度の拡充 ⑦効率的な林内路網の形成促進 ⑧緊急間伐総合対策の着実な実施 ⑨土石流・流木

災害対策の拡充強化 ⑩奥地水源地域荒廃地等の復旧保全 ⑪松くい虫被害対策の推進

イ 森林整備を支える林業担い手の確保・育成

①緑の雇用担い手対策の拡充 ②林業担い手の育成・確保及び林業事業体の体質強化 ③森林組合の育成強化 ④林業経営を担う人材の確保

ウ 県産材利用の促進

①公共建築物や一般住宅における県産材利用の促進 ②公共土木事業における間伐材の利用促進 ③林業・木材産業構造改革対策の拡充

④木質バイオマスの利用拡大の推進 ⑤県産材の新たな流通・加工システムの構築 ⑥乾燥材供給体制の整備

⑦新しい木材利用技術の開発

エ 美しく住みよい山村づくりの推進

①県民参加の森林づくり並びに森林環境教育の推進 ②里山林の保全・利用の推進 ③ボランティア団体等の参加による森林整備の推進 ④ふるさと森再生対策の促進 ⑤

⑥特用林産物振興対策の強化

オ 山形県単独事業の創設及び拡充

①公益の森づくりの推進 ②森林環境税の創設 ③ふるさと林道緊急整備事業の積極的推進 ④森林レクリエーション施設の整備促進 ⑤資源循環型森林施業団地化モデル事業

の拡充 ⑥山の恵み地産地消推進事業の拡充 ⑦県産材を利用した木造住宅への助成制度の拡充 ⑧林業リーダー・女性活動への支援 ⑨治山・林道事業の拡充

以上については、国、県に要望、提案する予定であります、

〔山形県森林協会〕



木材商品林場

表彰式

第15回山形県産材展示会を開催

県産材の品質を競う

去る九月五日、六日、八日にわたり、山形市表蔵王(株)山形城南木材市

場を会場に第十五回山形県産材展示会が行われました。



厳正かつ公平に行われた審査会1



厳正かつ公平に行われた審査会2

県内各地域の製材工場から品質の吟味された製材品二十点が出展されました。県産材展示会は、県内製材業者の製材技術及び品質の向上を図り、山形県産製材品の普及啓発を目的に開催され、今年で十五回目を迎えました。

製材技術、製品の表示及び結束などの項目について、厳正かつ公平な審査の結果、下表のとおり林野庁長官賞など七点を選考し、六日に展示会、八日に表彰式が行われました。最優秀賞の林野庁長官賞には、昨年に引き続き三年連続で最上広域森林組合が受賞しました。



林野庁長官賞を受賞した最上広域森林組合

五日に審査会が行われ、田代良英登録格付機関山形支所の検査員のほか十五名による審査員がJAS規格による寸法、ひきむらなど

表彰式終了後、出展された製材品の即売会も買い手約八十人で賑やかに行われました。
〔県森林課〕

賞	製材業者名	市町村
林野庁長官賞	最上広域森林組合	真室川町
山形県知事賞	丸北木材工業(株)	河北町
東北森林管理局長賞	温海町森林組合	温海町
山形県森林協会会長賞	(有)宇佐美製材所	南陽市
山形県森林組合連合会会長賞	八楸林業	舟形町
山形県木材産業協同組合理事長賞	(株)庄司製材所	真室川
山形県産材連絡協議会会長賞	山元林業協同組合	上山市

間伐コンクール

間伐の推進に波及効果を期待

平成十五年度の間伐コンクールは、七月十五日～八月二十六日に亘り、地区予選を経て総合支庁が選定、申請申込みを受けた林分に対し、現地審査及び総合審査を行い入選林分が決定されました。

一 主催

主催は、山形県森林協会及び山形県林業グループ連絡協議会で、県森林課の協力の下に実施しました。

二 申込数及び成績

申込数は、保育間伐六点、収入間伐五点で、成績は下表のとおりです。

三 審査員

現地審査は、県森林課大築林業専門技術員、鈴木県林業グループ連絡協議会副会長、県森林協会伊藤業務部長で、県審査は、加藤参事ほか七名であります。また、地区審査は、各総合支庁森林整備課長、森林整備専門員、主任専門林業改良指導員等であります。

四 審査基準

(1) 保育間伐
地区審査においては、五十点満点とし、計画性、間伐技術、波及性について、また、県審査においては五

十点満点とし、林地の保全、選木、作業状況について、それぞれ一点～五点の評点を設け評価しています。

(2) 収入間伐
地区審査では、保育間伐と同様ですが、県審査では、林地の保全、収益性、収入確保への取り組みを同様の基準で評価しています。

五 講評

地区予選で選抜された九箇所を四日間で見ていただきました。短期間に現地を比較したことで優劣がつかまりましたが、林業が厳しい状況下にあるなか、出展者各位におかれましては、それぞれの森林経営理念に基づいた適正な間伐に取り組みおられました。たいへん敬服いたしました。なかでも知事賞を受賞された森林につきましては、是非たくさんの人に現地へ足を運び実際に見ていただきたいと思えます。

六 表彰

九月十三日、酒田市宮之浦において行われた山形県育樹祭の席上で行われ、金森副知事から表彰状ならびに副賞が手渡され、平成十五年度の間伐コンクールが終了しました。来年度以降、更に多くの参加により盛大なコンクールにしたいと考えています。

〔山形県森林協会〕



保育間伐(知事賞) スギ29年生



収入間伐(知事賞) スギ37年生

地へ足を運び実際に見ていただきたいと思えます。残念なことに、林業の現状を反映してか、応募件数が年々減少しております。関係各位の積極的な応募、所有者への働きかけをお願いします。

山形県民有林間伐コンクール入賞者

賞		保育間伐部門		収入間伐部門	
		氏名	(所在)	氏名	(所在)
最優秀	山形県知事賞	日向 正美	(酒田市)	本間 正衛	(温海町)
優秀賞	山形県森林協会賞 会長賞	穴澤 信江	(米沢市)	佐藤景一郎	(真室川町)
優良賞	山形県森林組合連 合会会長賞	畦藤財産区	(白鷹町)	田代 組	(西川町)
入選	山形県林業士会 会長賞	月岡部落有林	(西川町)	新田 義雄	(米沢市)
入選	山形県林業グループ 連絡協議会会長賞	植木 和博	(金山町)	猪野沢生産 森林組	(東根市)

緑の少年団

活動報告



松山町立地見興屋小学校
6年 石塚 真実

育樹祭の思い出

私は、九月十三日に行われた、山形県育樹祭に参加しました。育樹祭の中で私が一番心に残っていることは、育樹作業の枝打ちです。枝打ち作業で私は最初に、副知事さんの枝

打ち作業のお手伝いをしました。はじめは、きんちゅうしていたけど、だんだん話しているうちにきんちゅうがほぐれていきました。それで最後に先生から、いっしょにあくしゅをした写真をとってもらったときうれしかったです。

次に、自分で枝打ち作業をしました。最

初、あまりのこぎりがうまく使えず、枝一本切るのに苦戦していました。でも一本の木の枝打ちをおわるころには、だいぶのこぎりの使い方も上

手になってきているような気がしました。そして一本の木の枝打ちがかわり二本目の木を枝打ちした時は、のこぎりをしっかり使えるようになりました。のこぎりの使い方を覚えたと枝打ちが楽しくなってきました。そしてもつとがんばろうと思ひ、私は、枝の多い木を選んで枝打ちをしました。一本一本しっかり枝を切っていました。一本一本しっかり木にいきましました。私は、それを何回かくりかえしているうちに、私の体は、

あせでぐっしよりぬれていました。私は、自分でもびっくりしました。でもがんばったなあとも思いました。十分くらいして、枝打ち作業がわかりました。私は、もつと枝打ちしたいなあと思ひました。それにいいあせかいたなあとも思ひました。私は、山形県育樹祭に参加して、いい思い出になったなあと思ひました。また、いいけいけんをしたなあと思ひました。育樹祭に参加して本当によかつたなあと思ひました。

私たちの学校では、募金活動や植樹祭、他校の緑の少年団との交流などですんで緑の少年団の活動に参加しています。今度緑の少年団の活動があつたらまた参加してみたいと思ひます。
この次もし育樹祭のような緑の少年団の活動に出たら、この前やった枝打ち作業をもう一度したいです。また今度は、植樹作業にも取り組んでみたいと思ひます。



緊張がほぐれて副知事と握手



副知事の枝打ち作業のお手伝い



県みどり推進機構理事長とがっちり握手

林業・木材産業改善資金制度の概要

このたび、林業・木材産業改善資金助成法(平成十五年七月一日施行)の制定に伴い、県の林業改善資金貸付規則等を全面的に改正したので、その概要をお知らせいたします。

◆背景

森林の有する多面的な機能を将来にわたって持続的に発揮させていくためには、林業及び木材産業の持続的かつ健全な発展が必要です。

このため、林業従事者、木材産業を営む人が林業経営若しくは木材産業経営の改善などを目的として行う先駆的取り組みを助長し、林業及び木材産業の健全な発展を一体的に推進するため、林業改善資金制度の全面見直しを行ったものです。

◆主な改正点

【資金使途】

従来の林業改善資金制度では、資金の使途を特定していましたが、新しくなった林業・木材産業改善資金制度は、資金使途を限定せず、事業者の創意工夫を生かした先駆的な取り組み等を行うための資金に改正し、次の事業を導入するための資金として活用することになります。

- ① 新たな林業部門の経営の開始
- ② 新たな木材産業部門の経営の開始
- ③ 林産物の新たな生産方式の導入
- ④ 林産物の新たな販売方式の導入
- ⑤ 林業労働に係る安全衛生施設の導入
- ⑥ 林業労働に従事する者の福利厚生施設の導入

【貸付対象者】

貸付対象を木材産業まで拡充したため、従来の林業分野に加え、木材産業の事業活動にも幅広く資金が活用できるようになります。

【新たな貸付方式の追加】

これまでのように県から直接貸付けを受ける直接貸付方式のほか、銀行等の融資機関からも貸付けが受けられる転貸方式を追加しました。転貸による貸付けの場合は、農林漁業

信用基金による債務保証が受けられます。

【貸付限度額】

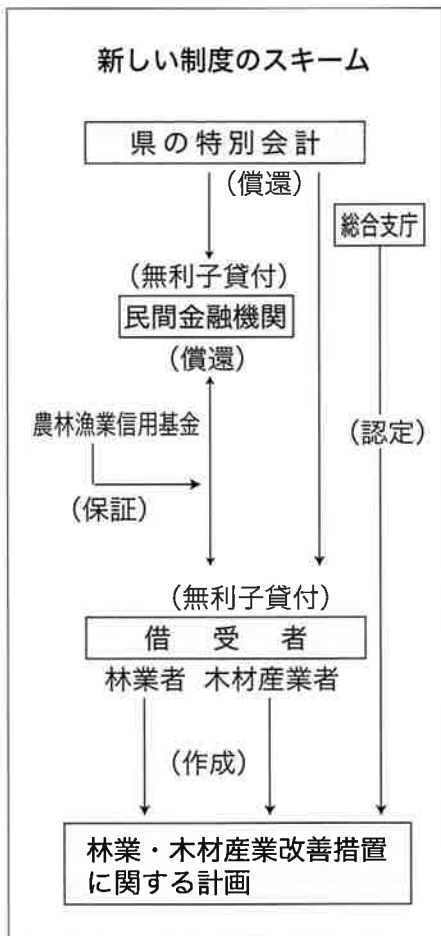
林業従事者ごとの貸付金の限度額は、個人では一千五百万円、会社では三千万円、会社以外の団体においては五千万円です。また、木材産業に係る事業を実施する場合は一億円となっております。

【貸付資格の認定】

貸付けを受けるためには、貸付資格の認定が必要となり、事業計画を作成し、貸付資格の申請を行っていただくこととなります。なお、詳細は、最寄りの総合支庁森林整備課にお問い合わせください。

県では、今後、この林業・木材産業改善資金の利用をおし、林業と木材産業の一体的な発展を図りながら、木材の地産地消等を推進していきます。

〔県森林課〕



お知らせ

山形県きのこ品評会のご案内

今年で十七回目となる「きのこ品評会」が左記の通り開催されます。

一 期 日

十二月二日(火) 審査会

十二月三日(水) 表彰式・展示会

二 会 場

鶴岡市中央公民館大視聴覚室

三 主 催

山形県きのこ振興会

四 出 品 品 目

生しいたけ、なめこ、ひらたけ、えのきたけ、まいたけ、ぶなしめじ、エリンギ

五 表 彰

農林水産大臣賞、林野庁長官賞、県知事賞等

六 表 彰 式 ・ 展 示 会

表彰式・展示会(午前九時半〜十一時半)は一般公開となりますので、ぜひご来場ください。また、正午から、同会場で品評会出品物の即売会を開催します。

七 問 い 合 せ 先

山形県きのこ振興会事務局【県森林課内(〇二三・六三〇・二五四二)】

〔県森林課〕

高性能林業機械の現状と課題

林業生産活動の活性化に貢献

普及情報

はじめに

林業、木材産業をめぐる情勢は、山村の過疎化と担い手の高齢化に加えて、外材との競合や代替材の進出などによって材価が低迷し、森林所有者の経営意欲の低下と、林業生産活動の停滞を招くなど、依然として厳しい状況にあります。その一方で、戦後植栽した人工林が伐期を迎え、国産材時代の到来が期待されます。

このような中で、林業生産性の向上を図るためには、高性能林業機械を導入して作業コストを低減させることが必要です。

高性能林業機械化の意義

林野庁の全国十八箇所で行ったサンプル調査によりますと、高性能林業機械作業システムによる木材生産コストは従来システムによるものより二〜三割縮減、労働生産性は二・四倍となっております。

また、平成二年から十三年までの死亡災害件数を「在来型機械作業」と「高性能林業機械作業」に分けて見ますと、高性能林業機械における死亡

災害が非常に少なくなっています。

林野庁と全国森林組合連合会が全国の伐出事業体に対して行った調査によりますと、高性能林業機械の導入台数が増加するのに従って、素材生産量当たりの災害件数は少なくなっています。これらのことから高性能林業機械の導入は林業労働安全の向上にも大きく貢献していることがわかります。

以上のことから、高性能林業機械化を普及・推進することは、生産性の向上や収益の改善による林業事業体の経営改善に、また、安全性の向上が林業労働環境の改善に繋がり、低迷する林業の活性化にも貢献することが期待されます。

高性能林業機械の現状

それでは、本県における高性能林業機械の導入状況はどうなっているのかといいますと、平成十五年三月三十一日現在では、二十三台となっております。(表一)

なかでも、フォワーダが最も多く十一台で全体の四十八割を占め、続いてプロセッサの四台、スキッダの三

台となっております。

山形県の高性能林業機械の導入のはじまりは、平成三年度に最上管内でフェラーバンチャが導入されたのが最初で、平成四年度には、フェラーバンチャが二台、プロセッサ・ハーベスタが共に一台で、すべて最上管内でした。フォワーダは、平成七年度北村山・最上管内に、スキッダは、平成七年度庄内管内に、スイングヤーダは、平成八年度庄内管内に導入されたのがはじまりです。

表-1 高性能林業機械の導入状況 (平成15年3月31日現在)

	村山管内	最上管内	置賜管内	庄内管内	合 計
フェラーバンチャ		1			1
スキッダ			1	2	3
プロセッサ	1			3	4
ハーベスタ		1		1	2
フォワーダ	4	5	1	1	11
タワーヤーダ					0
スイングヤーダ			1	1	2
合 計	5	7	3	8	23

次に、平成十四年度の年間稼働率の平均を見ますと、フェラーバンチャは七十二割、スキッダは五十四割、プロセッサは三十八割、ハーベスタは二十七割、フォワーダは十六割、スイングヤーダは四十二割、で全体の平均は三十割と全国の平均四十三割(平成十三年度)よりも低い状況

にあります。

このような原因としては、地形的制約・事業量の確保・オペレーター不足等の問題があります。



フォワーダによる集運材作業

今後の課題

今後、減少していくと予想される林業労働者数に対応していくためには、高性能林業機械化が必要不可欠です。そのためには、資源の成熟度、事業規模及び路網の整備状況等を総合的に勘案し、現地にあった創意工夫をしながら、地域に適した高性能林業機械作業システムの導入を図っていくことが、今後の課題となるでしょう。〔森林研究研修センター〕

里山林森林オーナー制度の活動から

自給自足の森で週末を過ごしつて見ませんか

米沢市関地区に里山林森林オーナー制度が誕生してから、早いもので三ヶ月が経過しました。県内で一番若い、まだほやほやの赤ん坊ですが、この間に取り組んできたことなどについて報告します。

まず真似から始めよ

この四月下旬の県、市それに事業主体である関生産森林組合の打合せを皮切りに、事業が開始されました。米沢市内では初の試みでもあり、準備段階での必要なノウハウは、県担当者との経験と知識の伝授、それに既にある森林オーナー先進地のものを活用してもらい進めて来たところと、悩まないでまず真似から始めようを実践した次第です。

現地説明会は、どうしても学校が夏休みに入る前にやっておくべきだと、七月十三日(日)に設定し、各種作業の計画、方針を立案。ハード面の区画の測量、造成とソフト面の募集用チラシ、ポスターの作成にピッチをあげました。

ほとんどの方が知らない中で、まづもって広く知ってもらおうことが大切である、PRが重要であるということ、チラシは、あらゆるツテを頼って配り方をし、デパートの入り口で手配りもしました。広報よねざわに掲載してもらい、NCV(ケーブルテレビ)でも放送をしてもらいました。二つの新聞社では、取材をもとに記事にして載せてくれました。口伝えに広めてくれる方もおられました。このような取り組みの結果、多くの方々の知るところとなり、関心を持ってくれた方からの電話による問い合わせや訪問が数多くみられました。

期待と不安の中で

はたして何人来てくれるのか? 期待と不安の中で七月十三日(日)をむかえました。家族の方を含めて二十人以上の方が参集してくれて、関係者一同ホッとした次第です。里山林森林オーナー制度の説明を行い、

現地ルポ

現地をよく見てもらったうえで抽選会では、十二区画のうち七区画(見込み含む)で契約を締結することができました。その後三区画でも契約が成立し、十区画で契約済みとなりました。(契約率八十三・三%)

募集は一応一段落し、次は、募集にあたって約束した「オーナーへの特典とサービス」の実行にとりかかりました。中でも柱となる森林利用講習会は、これまでに二回開催してきました。一回目は地元関町在住で林業士である黒田明雄さんを講師に

招き、伐木造材やチェーンソーに関する事、刃物、道具類などの話をお聞きし、最後に間伐の実技を見せてもらい、体験もさせてもらいました。

二回目は、米沢地方森林組合の武田和敏さんを講師に招き、きのこの作り方の話をしてもらい、原木になめこを植菌する栽培の実際をオーナーの方に体験してもらいました。

他の真似できない、関地区独自の活動を

目指して
オーナーになつていただいた方々
のオーナーとしての思い入れは様々
であると思います。十年間という長
い期間に決して安いとはいえない利



森林利用講習会(講師の黒田さんは、関生産森林組合の前の組合長理事で、森林オーナー制度にミチをつけた方でもあります。)

用料金を支払っていただくオーナーの方々を思ったとき、貸す側としては、オーナーになってよかったといってもらえるような取り組みを進めていくことが何よりも求められているといえるのではないのでしょうか。

最後に、関地区の森林オーナー制度を成功させるために、日夜奮闘されておられる、関生産森林組合の鈴木久志組合長理事に敬意を表して報告とします。

〔米沢市産業部農林課林務係〕



道満の三光ヒバは、天童市道満にある春日神社の社務所の敷地内にあり、昭和五十四年九月十日市指定天然記念物に指定されている。
 樹齢五百年と推定され、根周り七・〇メートル、目通し幹周り五・九メートル、樹高二十八メートルあり、地上二・五メートルのところまで三幹に分かれ、それぞれの幹周りは二・八メートルある。
 この天高くそびえる堂々とした姿は、実に壮観である。(山形県森林協会)



(案内略図)



公共木造施設 20

コテージ

真室川町大字平岡

(梅里苑の一面に整備された4棟のコテージの内の1棟)



完成年度 平成14年度

構造 木造平屋建

床面積 72.96㎡

問合せ 梅里苑 (TEL. 0233-62-2373)

特徴 整備された4棟のコテージは、それぞれ異なったすがた形をしており、地元産スギ材をふんだんに使用した構造となっている。



「夢の水族館」栄えある県知事賞受賞

山形県木材青壮年協議会（渡辺太郎会長）は、子供たちが木に関心をもち、木の暖かさなどを直接触れ、感じてもらいながら物を創りあげる喜びを味わってもらおうと、県内の小学校の生徒を対象にした「山形県児童木工工作コンクール」を開催しました。

山形市中央公民館（A Z）五階のミニギャラリーを会場に二十三校から八十八点の応募がありました。

今年で二十八回目を迎え、創造性にあふれた力作が数多く集まり、九月十八日には審査会が開催され、最優秀賞五点と優秀賞十点が決まりました。

山形県知事賞には、自然の木をうまく活かし組み合わせた、天童市立成生小学校六年垂石歩君の作品「夢の水族館」が選ばれました。

以下、東北森林管理局長賞には、余目町立第四小学校六年奥山勇太君の「武家屋敷」、山形県木材産業協同組合理事長賞には、山形市立桜田小学校四年北島万智香さんの「動物

ロボットの音楽隊」、日本木材青壮年団体連合会会長賞に、天童市立天童中部小学校二年森大將君の「もっきん」、山形県木材青壮年協議会会長賞には、酒田市立東平田小学校三年佐



山形県知事賞「夢の水族館」

藤絵未奈さんの「木のスタンド」がそれぞれ受賞されました。

なお、最優秀賞の五点は、来年六月に静岡県で行われる全国大会に出展されます。

また、受賞者の表彰は、十月十三日に第十三回山形県林業まつり（会場・山形ビックウイング）で行い、同時に作品もテーマ館に展示し、多くの方に見ていただきました。

〔県森林課〕



日本木材青壮年団体連合会会長賞「もっきん」



東北森林管理局長賞「武家屋敷」

確定利回りの1年貯蓄



半年複利の5年貯蓄



運用ニーズに応える

投資信託

農林中央金庫 山形支店

〒990-0042 山形市七日町3-1-11(市役所向い) TEL. 023-641-6271

農林債券・投資信託等に関するお問い合わせは

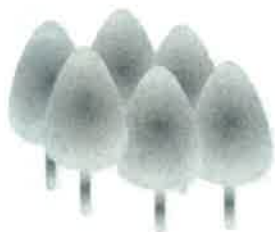
全国コールセンター 0120-345-526

9:00~17:00(土・日・祝日除く)



森林に対する様々な要望にこたえる

地域に根ざした森林づくりを進めます



財団法人 山形県林業公社

990-0041 山形市緑町一丁目9番30号

TEL 023-623-3505

FAX 023-623-3530

21世紀の緑を美しく、
安らぎと輝きの森林と水を求めて



社団法人 **山形県林業コンサルタント**

理事長 菅原 六郎

山形市松栄一丁目5番41号 TEL (023)647-1800

FAX (023)647-1801

印刷所 渡辺活版所 定価 一部二二〇円

森林やまがた11月号 平成15年11月1日発行 通巻第80号

監修 山形県

編集・発行 山形県森林協会

〒990-0045 山形市桜町2-35 林業会館内

TEL 023-631-6566 023-622-8823

FAX 023-631-6573

「ゆとり都」森林課ホームページ <http://www.pref.yamagata.jp/10/100520.html>

古紙配合率 100%再生紙を使用しています